

「放課後子供教室推進事業」の概要

趣旨

- 子供たちが、地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進するため、全ての子供を対象とし、**放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用**して子供たちの安全・安心な活動場所を確保し、**地域の方々の参画を得て**勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等を行う放課後子供教室の取組や、土曜日に地域の多様な人材を活用した学習等のプログラムを企画・実施する取組を支援する。
- 地域の人材等を活用**した中学生学カアップ教室を開催する市町村の取組を支援する。

内容

放課後子供教室：スポーツ・文化活動等の様々な体験活動や地域住民との交流活動等の取組を実施
放課後児童クラブとの連携促進

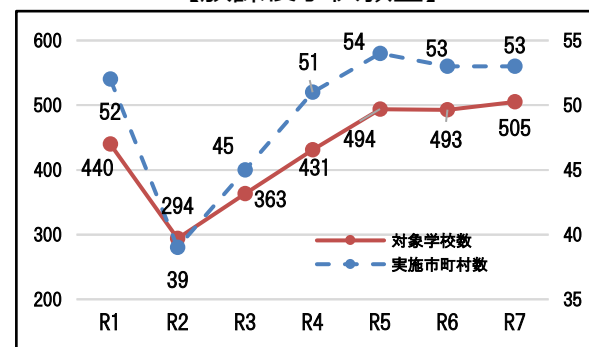
土曜日の教育支援：土曜教育推進員やボランティアを配置し、体系的・継続的なプログラムを実施

中学生学カアップ教室：学習支援員やボランティアを配置し、中学生を対象とした学習支援を実施

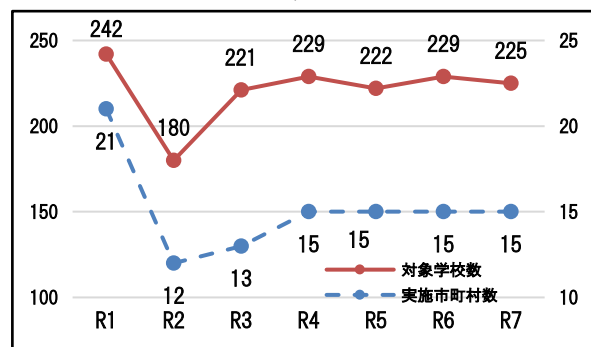


実施状況等

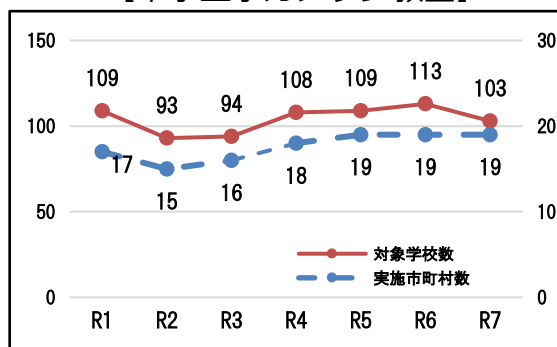
【放課後子供教室】



【土曜日の教育支援】



【中学生学カアップ教室】



放課後子供教室と放課後児童クラブとの連携

放課後子供教室実施教室
()は令和6年度

468教室
(453教室)

連携型教室※1

396教室
(393教室)

84.6%
(86.8%)

校内交流型教室※2

346教室
(315教室)

73.9%
(69.5%)

※1 連携型：放課後子供教室及び放課後児童クラブが連携して、共働き家庭等の児童を含めた全ての児童が放課後子供教室の活動プログラムに参加し、交流できるもの。

※2 校内交流型：「連携型」のうち、同一小学校内等で放課後子供教室及び放課後児童クラブを実施しているもの。

放課後子供教室の実施状況について



県内の放課後子供教室、土曜日の教育支援、中学生学力アップの実施状況です。

※網かけ部分は県の補助を受けずに単独事業として実施している市町。
 ※対象学校数とは、各事業に参加可能な児童生徒が在籍する学校の数。

南部	放課後子供教室		土曜日の教育支援		中学生学力アップ教室	
	実施教室数	対象学校数	実施教室数	対象学校数	実施教室数	対象学校数
川口市	49	49	4	4	42	19
鴻巣市	16	16	-	-	-	-
上尾市	2	2	6	33	-	-
草加市	21	21	21	21	3	3
蕨市	7	7	7	7	-	-
戸田市	12	12	-	-	-	-
朝霞市	2	2	6	10	1	1
志木市	8	8	-	-	4	4
和光市	9	9	-	-	-	-
新座市	17	17	29	17	-	-
桶川市	7	7	-	-	-	-
北本市	7	7	-	-	2	4
伊奈町	12	4	28	7	-	-
合計	169	161	101	99	52	31

東部	放課後子供教室		土曜日の教育支援		中学生学力アップ教室	
	実施教室数	対象学校数	実施教室数	対象学校数	実施教室数	対象学校数
行田市	12	12	-	-	-	-
加須市	5	22	-	-	6	8
春日部市	20	23	-	-	-	-
羽生市	6	6	-	-	-	-
越谷市	16	29	-	-	-	-
久喜市	21	21	-	-	10	10
八潮市	6	6	15	15	5	5
三郷市	4	18	1	26	-	-
蓮田市	5	8	-	-	-	-
幸手市	3	2	-	-	-	-
吉川市	1	1	-	-	-	-
白岡市	3	3	-	-	-	-
宮代町	-	-	-	-	-	-
杉戸町	1	1	-	-	-	-
松伏町	1	1	-	-	-	-
合計	104	153	16	41	21	23

西部	放課後子供教室		土曜日の教育支援		中学生学力アップ教室	
	実施教室数	対象学校数	実施教室数	対象学校数	実施教室数	対象学校数
川越市	20	20	-	-	-	-
所沢市	13	13	-	-	-	-
飯能市	2	2	-	-	-	-
東松山市	11	11	-	-	-	-
狭山市	12	14	-	-	-	-
入間市	16	16	-	-	-	-
富士見市	10	11	-	-	-	-
坂戸市	-	-	12	12	-	-
鶴ヶ島市	23	8	-	-	-	-
日高市	6	6	-	-	-	-
ふじみ野市	12	12	-	-	-	-
三芳町	5	5	-	-	-	-
毛呂山町	-	-	-	-	2	2
越生町	-	-	12	3	-	-
滑川町	1	1	-	-	-	-
嵐山町	1	3	-	-	-	-
小川町	5	5	-	-	-	-
川島町	3	3	-	-	-	-
吉見町	2	2	-	-	-	-
鳩山町	3	3	-	-	-	-
ときがわ町	1	1	1	3	-	-
東秩父村	1	1	-	-	-	-
合計	147	137	25	18	2	2

北部	放課後子供教室		土曜日の教育支援		中学生学力アップ教室	
	実施教室数	対象学校数	実施教室数	対象学校数	実施教室数	対象学校数
熊谷市	25	26	1	42	16	16
秩父市	-	-	-	-	2	8
本庄市	6	12	-	-	4	4
深谷市	8	8	19	19	10	10
横瀬町	1	1	-	-	-	-
皆野町	-	-	-	-	-	-
長瀨町	1	1	-	-	1	1
小鹿野町	1	1	-	-	7	1
美里町	-	-	-	-	4	1
神川町	-	-	-	-	1	1
上里町	6	5	-	-	1	2
寄居町	-	-	1	6	1	3
合計	48	54	21	67	47	47

放課後子供教室について

運営について	実施教室数	割合
市町村による運営	314 教室	67.1%
運営を委託している	154 教室	32.9%

参加児童数等	人数
登録児童数	46,558 人
参加した児童の延べ人数	665,777 人

児童の思いや意見を表明する機会	実施教室数	割合
設けている	286 教室	61.1%
設けていない	182 教室	38.9%

学校運営協議会委員	回答教室数	割合
なっている	161 教室	34.4%
なっていない	307 教室	65.6%



児童の意見をどのように運営に反映しているか（主な回答）

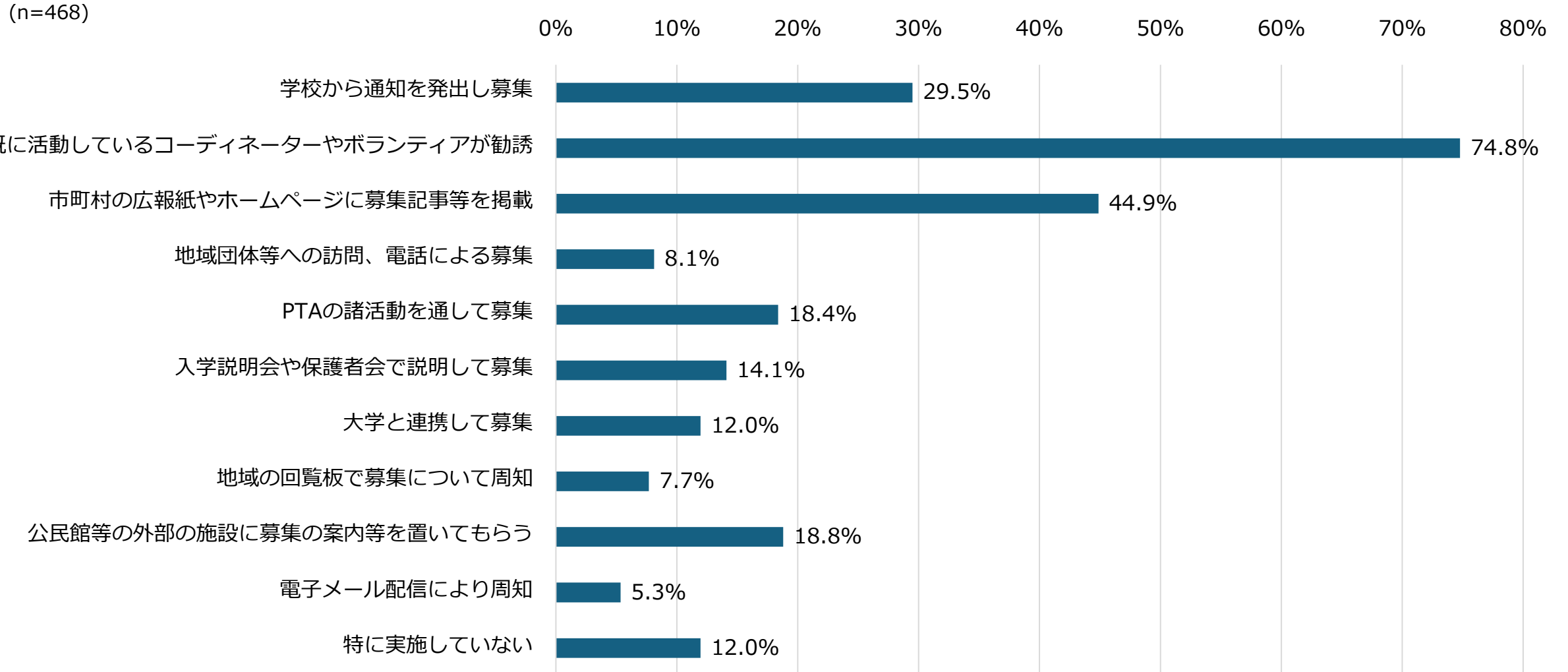
- 毎回配布している教室だよりに掲載したり、始まりの挨拶の時にお話ししたりして、児童及び保護者に伝えている。
- 毎回終了後に児童に感想を聞いている。その意見やスタッフの意見をもとに、コーディネーター内で話し合い、次年度以降の企画に反映させている。
- 各小学校で運営している実行委員会でも年1回アンケートをとり、その回答内容をもとに次年度の活動内容を計画している。
- 年度末に実施するアンケートの結果を踏まえて、次年度の活動計画や実施講座の選定に反映することがある。
- 「なんでも相談箱」を設置して、意見を伝えることができるようにしている。
- 保護者及び児童を対象としたアンケートを実施している。結果は、事業実施の参考とするとともに、各教室に共有している。
- アンケート結果や活動中の会話等により得た子どもたちの要望を、翌年度の活動の計画の参考にしている。



コミュニティ・スクール（学校運営協議会）での協議内容	回答教室数	割合
「コミュニティ・スクール（学校運営協議会）」の協議を経て、「放課後子供教室」の活動を展開している	25 教室	5.3%
「コミュニティ・スクール（学校運営協議会）」において「放課後子供教室の活動内容等」について報告している	98 教室	21.0%
「コミュニティ・スクール（学校運営協議会）」と関連して活動を行っていない	345 教室	73.7%

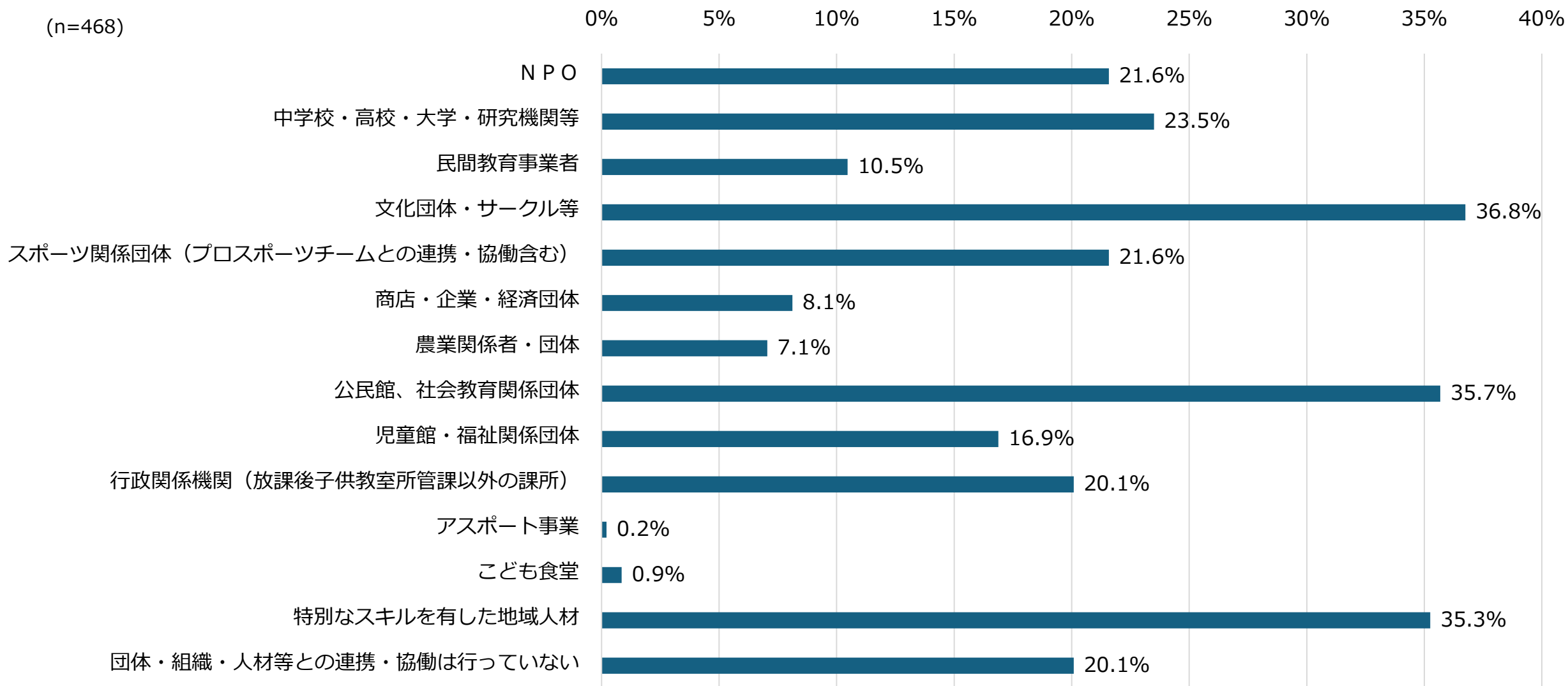
ボランティアの募集方法

ボランティアの募集は、放課後子供教室に携わっているコーディネーター等の勧誘によることが主な方法であることが分かる。広報紙や市の広報による募集も一定の割合を占めているが、SNSやホームページといったデジタル媒体での募集は比較的少ない傾向にある。直接的な呼びかけや人間関係を活かした募集方法が多く採用されていることが分かる。



団体・組織・人材等の連携・協働

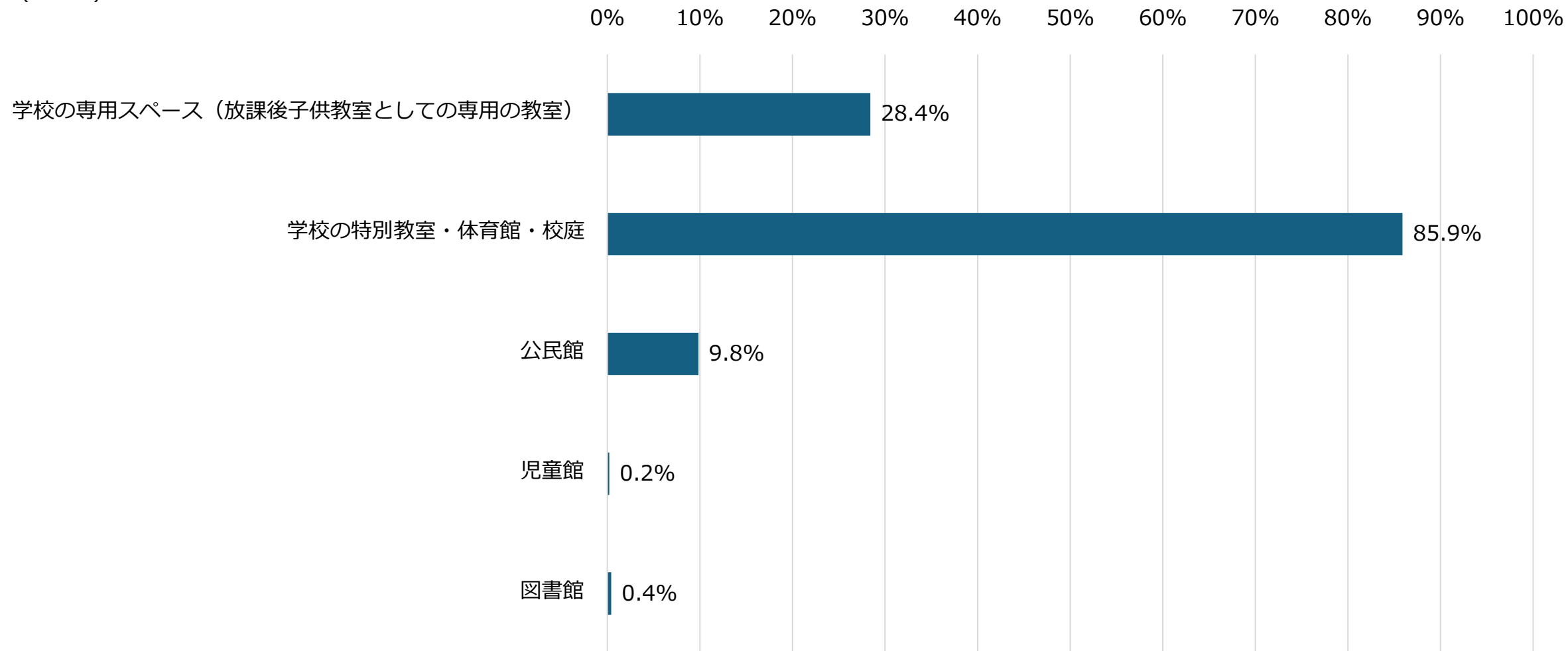
放課後子供教室の事業実施にあたり、文化団体・サークル、公民館、社会教育関係団体、特別なスキルを持つ地域人材と連携・協働しているおとが多い。次いで、地域のNPOやボランティア団体、自治会など地域組織との協働も多く行われている。今後も円滑に事業を運営していくには、学校や地域社会との連携を一層強化していくことが重要である。



放課後子供教室における活動場所

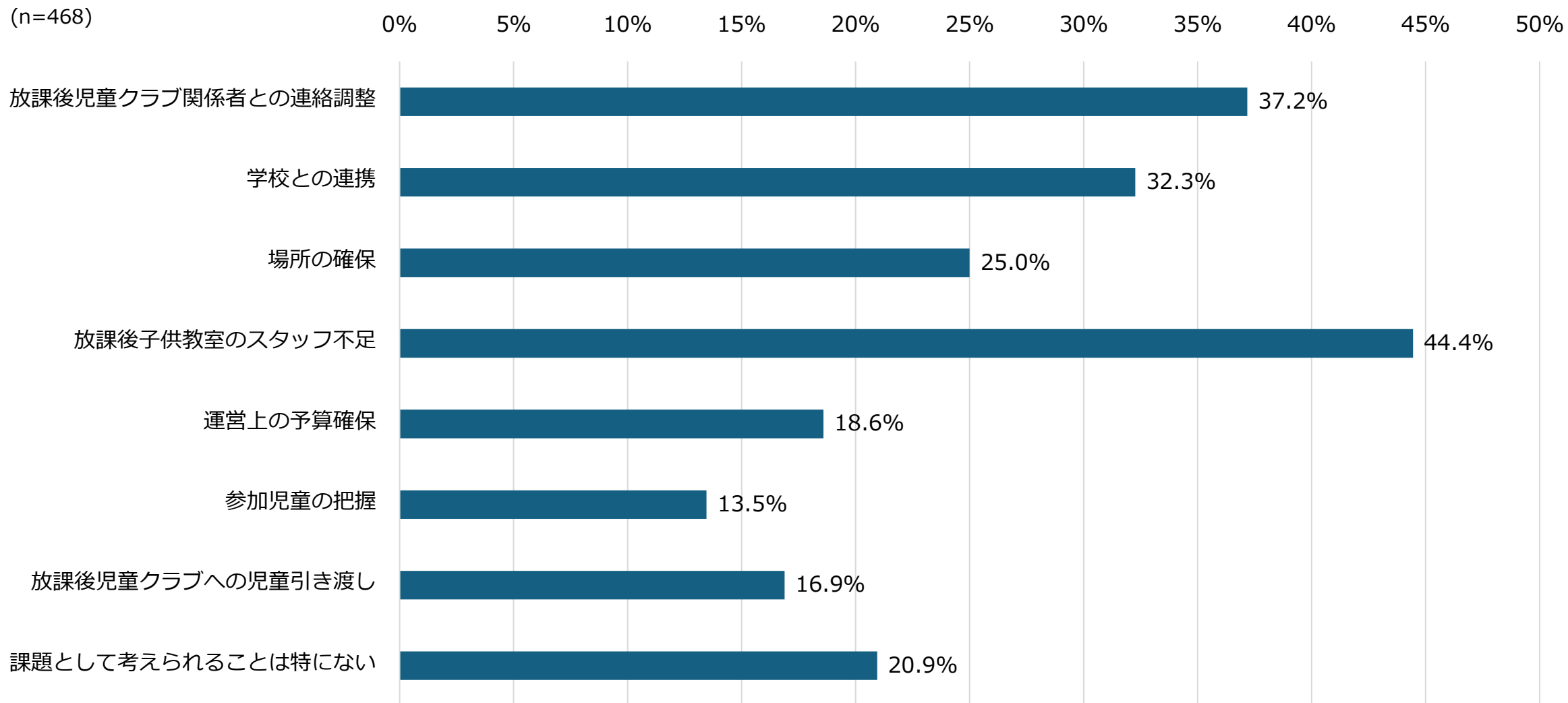
放課後子供教室における児童の活動場所の多くは学校の「教室内」であることがわかる。次いで体育館や特別教室など、学校の施設内で活動している割合も高い。屋外や校区外の施設での活動は少なく、多くの教室が学内環境を活用していることが示されている。活動場所としては、安全で管理しやすい学校施設を中心に利用している傾向がうかがえる。

(n=468)



放課後児童クラブと連携する上で、課題として考えられること

放課後子供教室の関係者が放課後児童クラブとの連携において特に課題と感じているのは「スタッフ不足」である。また、両事業者の「情報共有不足」や「学校との連携」についても高い割合となっている。今後はこれらの点を改善し、より良い連携体制の構築を目指していくことが重要である。

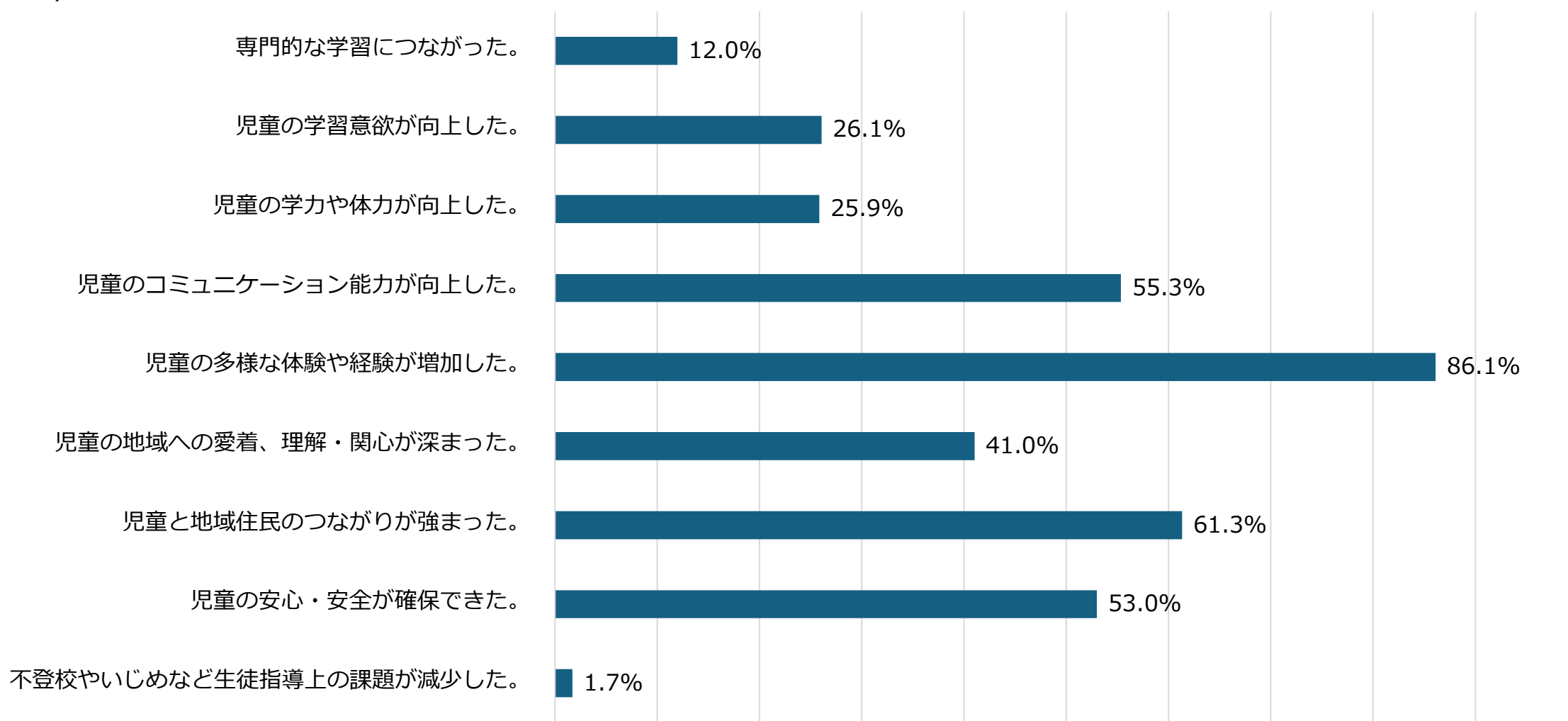


児童にとって成果として考えられること

放課後子供教室の実施により、学校生活や日常では体験できない、多様な体験・経験ができることが大きな成果として捉えられていることが分かる。また、友人関係の形成やコミュニケーション能力の向上も多くの教室で成果として認識されている。放課後子供教室は、学習意欲や学力の向上というより、幅広い体験活動、異学年や地域の方との交流によるコミュニケーション能力の増加につながるということが明らかである。

(n=468)

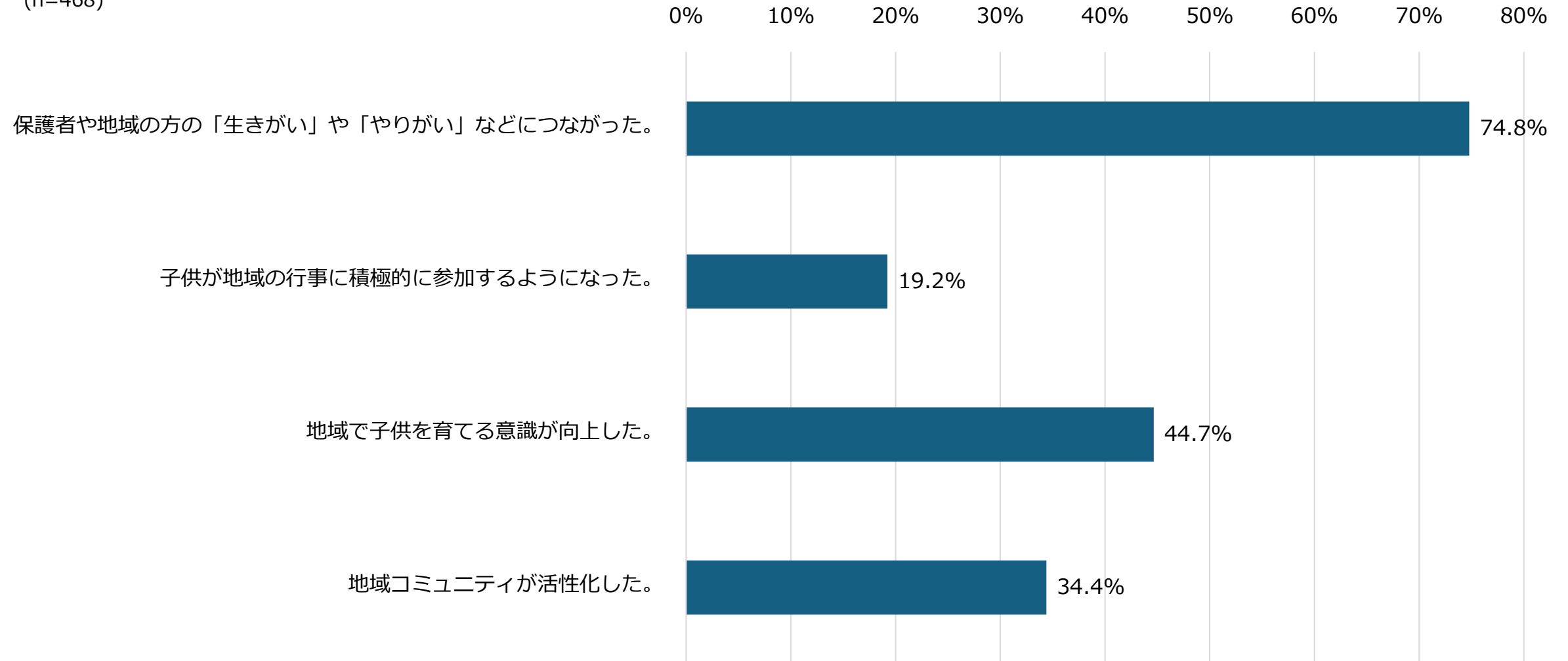
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



地域の視点から成果として考えられること

放課後子供教室は、保護者や地域住民の「生きがい」や「やりがい」に大きく貢献していることが分かる。一方で、地域全体で子どもを育てる意識やコミュニティの活性化はまだ十分とは言えず、さらに子どもたちの地域行事への参加も低い状況にある。より幅広い地域住民の関わりや子どもたちの地域参加を促進する取り組みが必要である。

(n=468)



課題として考えられること

放課後子供教室の運営には人材確保や内容の充実、関係者の理解・協力、専用場所の確保が大きな課題であることが分かる。これらの課題を解決することが、より質の高い教室運営につながる。今後は地域や学校、保護者と連携を深めながら、安定した運営基盤の構築を目指し、持続可能な活動に向けて、体制の強化が重要となる。

